国内最古級の土偶（どぐう）が出土

相谷熊原遺跡（あいだにくまはらいせき）

所在地：東近江市永源寺相谷町

相谷熊原遺跡は、東は鈴鹿の山々、西は愛知川に面した、山麓のゆるやかな斜面上に広がる、縄文時代を中心とした遺跡です。発掘調査によって、縄文時代草創期（約 13,000 年前）の竪穴（たてあな）建物跡、縄文時代晩期（約 3,000 年前）の墓跡などが見つかりました。また数多くの土器や石器なども出土しました。

「約 13,000 年前 最大級の建物跡」

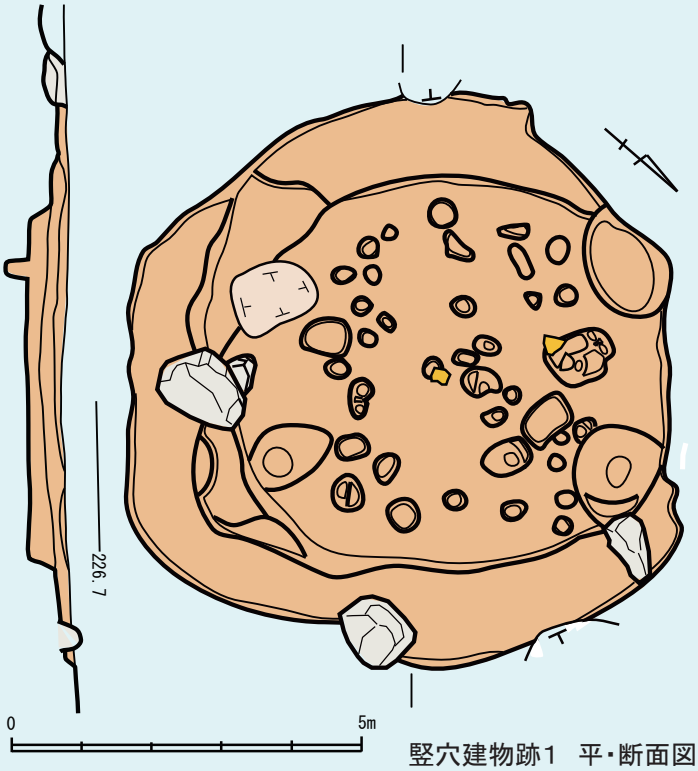
「約 3,000 年前 二種類の墓群」

とくに縄文時代草創期の遺跡は、近畿地方では類例が少なく、滋賀県内では初めての発掘調査となりました。

この時期では最も規模の大きい竪穴建物跡や、最古級の土偶（どぐう）が出土するなど、常識をくつがえす大きな成果をもたらしました。

約13,000年前の竪穴建物跡

竪穴建物跡1



竪穴建物跡1　平・断面図

定着的な生活の始まり？

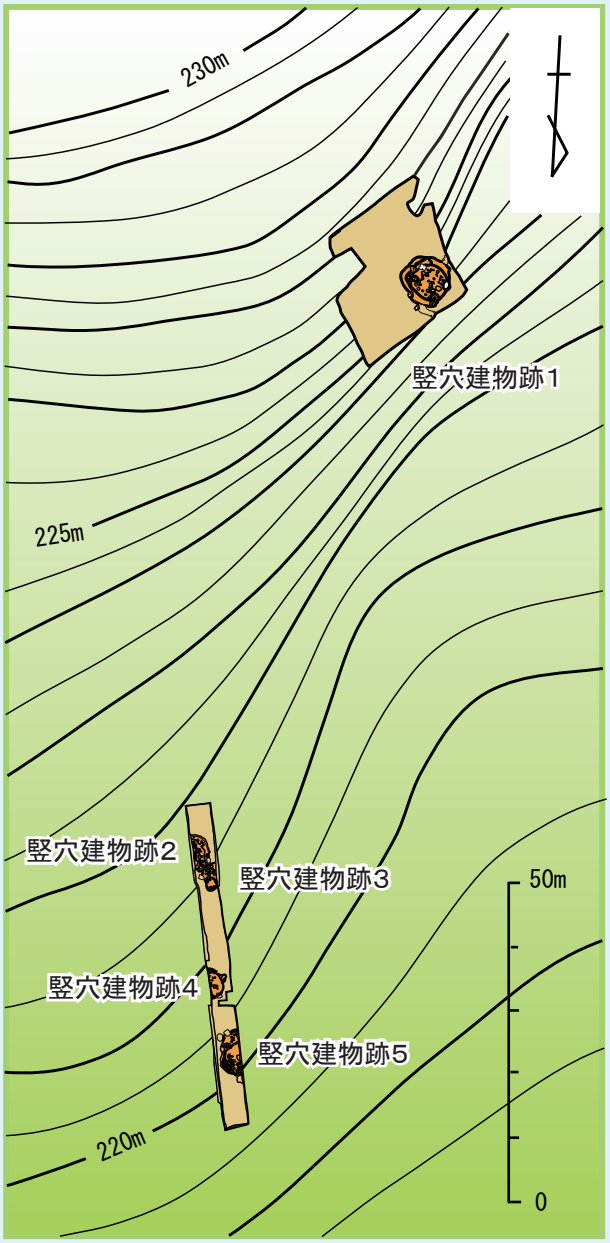
竪穴建物跡は、5棟分が見つかりました。平面は不整円形で、中心の掘り込みの周辺が一段高いベッド状になっているのが特徴です。大きさは最大径7.9m、深さは0.9mに及び、床面積はおよそ50㎡と、この時期の竪穴建物跡の中では最大級です。

縄文時代の初めには、このような規模の大きな建物が造られていたという、画期的な遺構です。人がどれくらいの期間、何人住んでいたのかなど、具体的な生活像の復元が今後の課題です。

竪穴建物跡の分布

竪穴建物跡は谷部の肩側で見つかりました。この選地は琵琶湖から鈴鹿山に向かって吹く風よけのためと考えられ、建物の床面が深いことも関係があるかもしれません。

発掘調査が行われたのは遺跡全体のごく一部であり、この他にも建物跡が残る可能性は十分にあります。類例が少ないなか、重要な調査成果であるとともに、どのような集落構造であったのか、今後の解明が期待されます。



竪穴建物跡　位置図

竪穴建物跡断面

竪穴建物は、黄色い地面を掘りくぼめ、柱を立てて屋根を覆い、居室の空間を作り出します。屋根を支える柱跡が数多くあるのは、柱の建て替えと考えられます。

写真では、黒い土で竪穴建物が埋没した様子がうかがえます。床面は複数面あったと見られています。なお、床面には火を使った痕跡が見られないため、屋外で火を使用したと考えられます。

国内最古級の土偶

土偶は、竪穴建物跡1の埋土の中から一つだけ出土しました。女性の胴体を表現した形状で、自立するのが特徴です。表面は平滑で、目の細かい土を用いて丁寧に作られています。

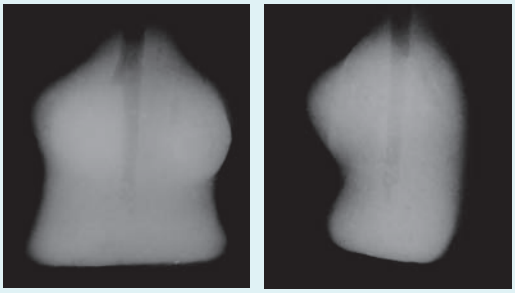
土偶は縄文時代を通じて作られ、当時の人びとにとって欠かせないものと考えられます。しかし用途については、玩具や護符、信仰具など様々な説がありますが決着を見ておらず、答えは一つではないかもしれません。また土偶はユーラシア大陸では後期旧石器時代から見られ、土器や石器とともに世界史の中で語られる資料です。国内最古級の一つである相谷熊原遺跡出土土偶は、そういった見知から評価すべきものといえます。

同じく最古級と言われる土偶に、三重県松阪市粥見井尻遺跡出土のものがあります。鈴鹿山地を挟んだ東西2つの遺跡に、古い時期の土偶が見つかっています。

最古級の土偶が出土

DOGU

最大高 3.1 cm
最大幅 2.7 cm
重　量 14.6g
頂部孔（径）0.3 cm
　　（深）約 2 cm



X 線 写 真

X 線写真では頂部からの孔の断面がよく見えます。先の細い小枝の形で、土偶を焼成する前に差し込み、燃焼時には燃えてなくなった木の枝の痕跡とされます。

のちに土偶の内部を空洞にする中空土偶というものがあり、意図的にそのような形にしたとも考えられます。

約13,000年前のくらしの道具

煮たり茹でたり？

縄文時代は土器作りが始まった時代です。最初の頃は縄の文様はまだありませんでした。出土土器の一部に爪形文様（爪を押しつけたような文様）を持つものが見つかっています。修理孔が残る土器が出土し、大切に使われていたことがうかがえます。

叩いて割ってすりつぶす

木の実や根菜類などをつぶして粉にする石器が出土しています。愛知川で採取できる花崗岩や、湖東流紋岩でつくられたものです。縄文時代を通じて使われる道具です。

石皿と敲石

獲物をねらえ！弓矢のやじり

やじり（石鏃（せきぞく））は、遺跡周辺で産出するチャートのほか、遠くは大阪府と奈良県の境にある二上山産サヌカイト、岐阜県の湯ケ峰産下呂石のものが出土しています。石材の流通があり、ここで石鏃が作られました。石鏃の二又に分かれた部分が長いものを長脚鏃といい、縄文時代草創期の特徴です。

溝のある砥石

矢柄磨研器（やがらまけんき）と呼ばれる、縄文時代草創期に特徴的な石器です。細長いものを研ぐのに使用した砥石とされます。

約3,000年前の二種類の墓群

土坑墓群（どこうぼぐん）

遺跡の南西部では土坑や小穴が密集して見つかっています。これらの中には、形状や規模の違いにより、土坑墓・土器棺墓と呼ばれるお墓の跡が数多く含まれています。

土坑墓は、掘った穴に遺体をそのまま入れたものです。土坑の平面形は長方形で、長さは0.6m～1.6m、深さは0.35m～0.5mです。骨や副葬品は出土していませんが、40基が確認されています。

石組のある土坑墓

穴を掘った後に石組を積んだ土坑墓で、その上部に石棒と石皿を並べていました。祭祀的な行為があったのか、数ある土坑墓の中でも特殊なものです。

石皿

石棒

土器棺墓群（どきかんぼぐん）

土器棺墓は、煮炊きに使うような土器を棺おけに利用したお墓です。土器の大きさは50㎝程で、この中に遺体を入れたと考えられます。総数は30基が見つかり、土器の型式からは、時期がほぼ限定されています。痕跡から本来は土盛りがされていたと見られ、転々と墓が分布する風景が広がっていたと思われます。

出土状況

土器を収める穴は、土器にぴったりの大きさです。その中に横方向や斜め方向に土器を埋めています。

多くの土器棺は、他の土器の破片を蓋として使用していました。

なお、骨や副葬品は見つかりませんでした。

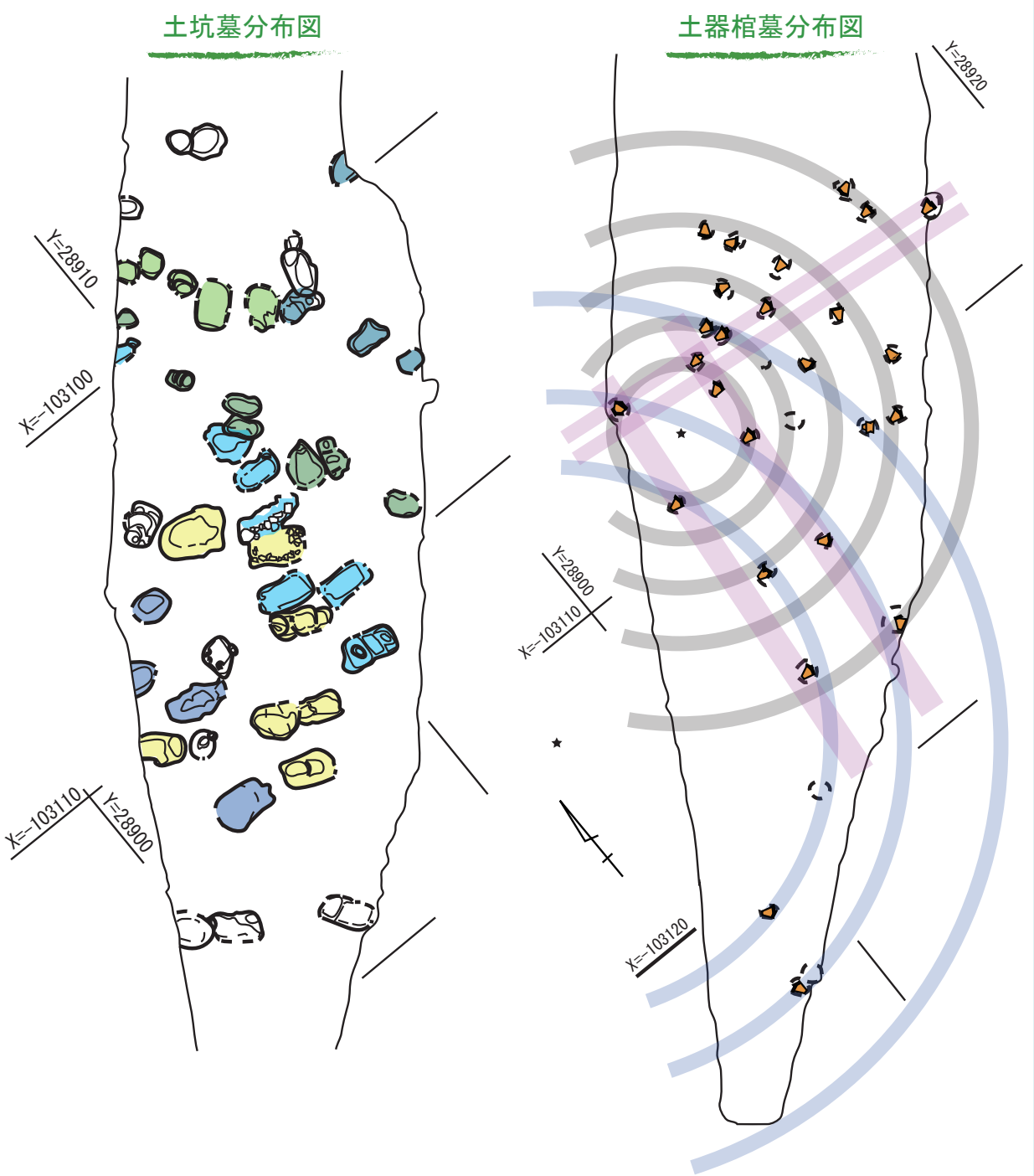
棺おけに使われた縄文時代晩期の土器

土坑墓群と土器棺墓群の関係

土坑墓と土器棺墓は重複して見つかっています。 出土状況から土坑墓が先に作られ、その後土器棺墓が作られるようになったと考えられます。 墓制が転換する段階を理解することができる良好な資料と言えます。

なお土器棺墓については、 東近江地域での一遺跡内で見つかった土器棺墓の数が最も多い遺跡となりました。

下図は土坑墓、 土器棺墓の分布状況を分けて示したものです。 土坑墓はその形から、線的な配列がうかがえます。 また、 土器棺墓は環状の配列になっているようです。 配列が意味するところは分かりませんが、 この事例から見ることによって、 類例が見つかるかもしれません。



※縮尺は異なります

相谷熊原遺跡の周辺遺跡

相谷熊原遺跡の周辺は、平成 21 年から始まった発掘調査以前は、縄文時代の遺物がわずかに知られる程度でした。隣接する遺跡としては、高野館遺跡や高野遺跡で発掘調査が行われ、中世期に遡る城館跡が見つかっています。

相谷熊原遺跡の発掘調査地

相谷熊原遺跡は、滋賀県と三重県を結ぶ古くからの重要な交通路である八風街道沿いに位置します。また縄文時代には、愛知川が現在よりも遺跡の近くを流れていた可能性があります。下図のように、遺跡の一部分のみが発掘調査されただけで、たくさんの遺跡が眠っていると考えられます。なお現状は、ほ場整備されて地形が変わっています。また埋め戻しが行われ、建物跡などを見ることはできません。

縄文時代とは？

今からおよそ 16,000 年前から 2,800 年前、 土器の使用が始まり、 本格的な農耕が開始されるまでを画期とした列島の大きな歴史区分を「縄文時代」と呼んでいます。 土器の表面に様々な縄目を施す「縄文土器」がその名の由来です。 なお縄文時代は大きく6期に分けられ、 相谷熊原遺跡は縄文時代の最初と最後の時期の遺跡です。

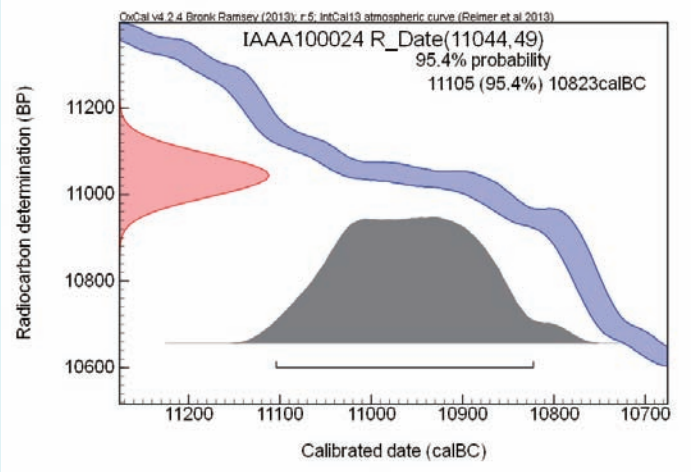
縄文時代の生業は狩猟、 漁労、 採集が主であり、 季節的な定住生活であったと考えられています。 相谷熊原遺跡では、 鈴鹿山地から大和高原、 紀伊山地へと連なる豊かな自然が当時の人びとにとって快適な環境であり、 竪穴建物や道具類を所有して定着的な生活を行い、 さらには土偶にみられる精神的な活動を生み出していたと考えられます。

炭素14年代法による測定

縄文時代の年代区分と実年代は、 土器編年と炭素 14 年代法を用いています。

炭素には同位体と呼ばれる炭素 12, 13, 14 があります。 炭素 14 は放射線を出しながら崩壊し、その速度である半減期（5730±40 年）が分かっています。 この炭素 14 と安定的な炭素 12 との比率によって炭素年代が求められます。 これに年輪年代や成長線を刻むサンゴなどの年代との較正によって較正年代が算定され、 実年代が推定されます。

相谷熊原遺跡では竪穴建物跡から出土した土器 9 点の炭化物が採取されました。 その結果、炭素 14 年代で 11,210±50yrBP ～ 10,870±50yrBP が測定され、 実年代で 13,000 年前頃と推定されています。



暦年較正年代グラフの一例

炭素年代測定がされた土器片

東近江市の主な縄文時代遺跡

東近江市では、正楽寺遺跡で旧石器時代の翼状剥片、浄土屋敷遺跡、蛭子田遺跡での縄文時代草創期の有舌尖頭器、大中の湖東遺跡で早期の爪形文土器が出土しています。

時代は下って中期から後期に新堂遺跡、後期には能登川石田遺跡、正楽寺遺跡、今安楽寺遺跡などで集落跡が確認されます。とくに正楽寺遺跡では建物跡の他、ドングリ貯蔵穴、土器塚、また祭祀の跡とされる環状木柱列跡や土面が出土しています。また関東・中部・北陸・四国・九州など各地の土器が出土し、活発な交流の痕跡がうかがうことができます。

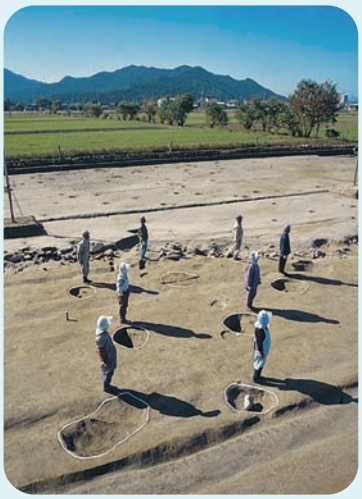
縄文時代晩期の遺跡が最も多く、杉ノ木遺跡や麻生遺跡一帯で集落跡、日吉遺跡、下羽田遺跡などで土器棺墓、土坑墓群が見つかっています。とくに下羽田遺跡では、土器棺を木箱に納めて埋葬した木槨墓が1基見つかっており、後に木棺墓へ変化していく過程を表しています。

土偶　新堂遺跡

土偶　能登川石田遺跡
北陸系土偶といわれる

石棒　陽物を形作った祭器とされる

埋葬遺構　正楽寺遺跡



環状木柱列跡　正楽寺遺跡
中央に火を使った痕跡

石冠　新堂遺跡

竪穴建物跡　新堂遺跡

土器棺墓　今安楽寺遺跡

磨石・石皿　今安楽寺遺跡

石斧・凹石・石錘　日吉遺跡

正楽寺遺跡
朱とベンガラが塗付される

相谷熊原遺跡・永源寺地区について調べるには

図書館・埋蔵文化財センターなどで調べる

東近江市埋蔵文化財センター（山路町）

・発掘調査報告書関係

発行：滋賀県教育委員会・公益財団法人滋賀県文化財保護協会

「農地環境整備事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 相谷熊原遺跡Ⅰ」平成 26 年

「農地環境整備事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ 相谷熊原遺跡Ⅱ
相谷寺前遺跡 相谷下村遺跡」平成 27 年

発行：滋賀県教育委員会

「近江水と大地の遺産 1 縄文人の祈りと造形」平成 24 年

※本リーフレットの写真・図の一部は上記の本から滋賀県教育委員会の許可を得て使用しています。

「滋賀県中世城郭分布調査 4 旧蒲生・神崎郡の城」昭和 61 年

発行：東近江市教育委員会

「東近江市埋蔵文化財調査報告書第 9 集 高野遺跡・高野館遺跡」平成 22 年

埋文センターで土偶消しゴム作り

・永源寺町史　発行：永源寺町・東近江市

「木地師編上下巻」平成 13 年、「永源寺編」平成 14 年、
「通史編」平成 18 年

永源寺町史は現在発売中です。
詳しくは東近江市教育委員会までお問い合わせください。

インターネットで検索する

・**永源寺まちづくり協議会**（facebook もあります。）
イベント情報等が掲載されています。

・**公益財団法人滋賀県文化財保護協会**
現地説明会資料などが掲載されています。

・**滋賀県教育委員会文化財保護課**
「淡海の文化財」が紹介されています。

相谷熊原遺跡へのアクセス

車：国道 421 号　名神高速道路八日市インターチェンジから東に約 8km。
石榑トンネル（滋賀県側）から西に約 15km。

バス：近江鉄道八日市駅から近江鉄道バス「御園線」永源寺車庫バス停　徒歩 10 分。

東近江市の遺跡シリーズ14「相谷熊原遺跡」

編集・発行　東近江市教育委員会　埋蔵文化財センター
〒521-1225　滋賀県東近江市山路町 2225
TEL 0748-42-5011　IP 050-5801-5011
FAX 0748-42-5816
［平成 28 年 3 月発行］

このリーフレットは、平成 27 年度国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」で作成しました。